



関西玉龍

第5号 2005年07月10日発行

発行人 関西玉龍同窓会

題字 岩崎照雄(S26年卒)

8月27日 第9回総会・懇親パーティ 特別ゲストは世界の毛皮デザイナー今井千恵さん

関西玉龍同窓会の2005年度総会・懇親パーティーは、8月27日(土曜日)にホテル日航プリンス京都(京都市中京区、午後2時開会)で開催します。

数えて第9回の総会・懇親会。ゲストには、世界の毛皮デザイナー・今井千恵さんをお迎えします。もちろん、玉龍の出身(38年卒)。同窓生です。今回はニューヨークから帰国されての出席です。貴重な体験を元にした「講演」(玉龍高校で過ごした少女がアメリカ制覇へ)にご期待ください。

また、これまで2回セッティングして好評の「鹿児島島の物産品即売コーナー」も出店します。つけあげ、漬け物、ボンタン飴……。昔懐かしい味をお楽しみください。

8月末の京都。まだ残暑厳しいかとも思いますが、夏の終わりの京都もまた一興でしょう。先輩後輩、同期生諸氏に声をかけていただき、一人でも多くの参加をお待ちしています。日頃の憂さを忘れて、青春プレイバックといきましょう。(役員一同)

今井千恵さん 1977年にスペインのレザーウェアの輸入販売を目的に女性ばかり4人でレイナ株式会社を設立。78年からデザイン活動を開始。93年には、ブランド名「ロイヤル チェ」での展開をスタート。99年、ヴァレンティノ、イヴ・サンローランにも参加するニューヨーク毛皮コレクションにアジア人初のデザイナーとして招かれてコレクションショーを開催。作品の芸術性の高さが各方面から評価される。2002年には、世界女性起業家40人の中の一人に選ばれ“世界の今井”のポジションは不動のものになった。現在、博多とニューヨークを拠点に活躍中だが、毎年ニューヨークで開かれる「チェ ブランド」のファーコレクションは多くの女性を魅了しています。

目次:

第9回総会のお知らせ 1

盛大に
ラグビー部激励会 2

きっと忘れないあの
トライ 2

What is Dragon
Boat (下) 4

「歌の家」の三代
- 親・子・孫の歩み - 6

県人会報から
焼酎・知って得 7

鹿児島島の地図が変わる
(市町村合併) 8



昨年の総会から

盛大にラグビー部激励会

母校・鹿児島玉龍高校ラグビー部が、昨年末の第87回全国高校ラグビー選手権、「花園」に鹿児島代表として22年ぶりに出場しました。試合は、神奈川県代表の法政二と対戦（12月27日）。残念ながら56で敗れましたが、トライに結びついた試合終了直前の怒濤の攻めは「最後まで諦めない精神は立派」と各方面から高く評価されました。

先輩たちが全国の舞台にやってくる。この朗報は、県大会の決勝戦で甲南を破った（27-10）直後から駆けめぐり、「関西玉龍同窓会として、いかにして歓迎・激励したらいいのか」となり、1959年（昭34）に花園出場を経験された丸山宣武さんを中心に会合を重ね激励会の実施、試合当日の応援などの運びになりました。

激励会などの開催に関しては、会員の方々にはカンパをお願いしましたと

ころ、112の団体・個人の皆さまから63万8000円と物品の援助をいただきました。お陰で12月25日の激励会（大阪ミナミ・ニュージャパン）には選手・監督、校長先生など約45人を招待。他に関東玉龍同窓会、鹿児島県大阪事務所、関西鹿児島県高校同窓会連合会、鹿児島工業、樟南、大川高校などの代表者の出席も得て盛大に催すことができました。皆さまのご厚情には心より感謝します。有り難うございました。

今回のラグビー部の“大舞台での活躍”、先輩たちは勝負の厳しさを通して経験と人生教訓を学んだでしょうし、我々は青春ブレーバック、結束の意義、絆の大切さを体験させてもらいました。

（カンパしていただいた皆さまには2月1日つけの書面で収支報告などさせてもらいました）

きっと忘れないあの1トライ

～玉龍ラグビー花園観戦記～

（36年卒 上野紘一）

レフリーが腕時計をチラッと見た。「次のワンプレーで終わりかな」と思ったに違いない。残り時間は3分もあっただろうか。いや、すでにロスタイムに入っていたかもしれない。その時だった。玉龍フィフティーンが炎と燃えたのは。

相手・法政二の左サイド。敵のゴールライン手前1、2メートル地点で壮絶な押し合いが続く。玉龍自慢の強力FW陣が押しまくる。応援席からは「押しせ、押しせ押しせ玉龍」の大声援。あと50センチ、20センチ。すぐそこにゴールラインが見えているのにトライに持ち込められない。ゴールラインが遠い遠い。倒れ込む戦士たち。それでもつなく、つなく。ただただ1トライが欲しくて、薩摩男の子の意地を見せたくって。プレーが途切れたら“大敗”の2文字しか残らない。だからつなく、つなく。そん

な玉龍健児の執念が楕円球にのり移った。「君たちのファイトは素晴らしい」。だから女神は見放さない。最後はPKからNO8西田が敵の群雄をかき割って飛び込んだ。

やった、やったトライだ。花園トライだ。66点ももぎとった法政二戦士も放心状態に見えた。約500人のOBらが陣取った玉龍サイドのスタンドには、歓声が爆発した。まるで勝利の雄叫びのように。そして（ゴールはならず）ノーサイドのホイッスル。566。60分の激闘ドラマの幕は下りた。

第84回全国高校ラグビーフットボール大会初日の12月27日。花園ラグビー場。“生駒おろし”はわずかばかりその勢いをゆるた第3グラウンド。戦いは午後1時15分、22年ぶりに全国舞台に臨んだタイガーージャージ玉龍のキック

玉龍高校 応援歌

熱砂をふみて たくましく
あらがね肌に 玉のあせ
夕べにあしたに 鍛へ来て
乾坤一擲 大地ふむ
血潮はたぎり 身ぞおどる
玉龍々々 あゝ意気の子
玉龍

若鷲かける 火の島や
ひとたび怒れば 灼熱の
鉄をもとがす この闘魂
行手をはばむ ものやあ
る
輪えいを決す この一戦
玉龍々々 あゝ熱の子
玉龍

玉龍山下 風はれて
勝利を告ぐる 雄叫びは
天にひびけと 地に和し
ぬ
髀肉の嘆を かこちたる
若き命を 賛ふなり
玉龍々々 あゝ覇者の子
玉龍

玉龍高校 校歌

南の空晴れ渡り
黒潮のたゆたふところ
火の島の煙揚げば
鉄の意気は燃え立つ
ああ澁瀨の若き玉龍

蛟龍の玉をふふみつ
雨を呼び風をはらみて
舞ひのぼる雲を揚げば
天を衝く力みなぎる
ああ躍進の若き玉龍

荆棘の試練に耐へて
うちたつる文化のあした
旭日の光揚げば
青雲の希望はおどる
ああ玲瀧の若き玉龍

オフで始まった。正面スタンドには関西玉龍同窓会のメンバーを中心に約500人、バックスタンドにはバス5台を連ねて、鹿児島から駆けつけた現役生と父兄200人が大声援を送る。

が、その声援が最初の悲鳴に変わるまで時間はかからなかった。開始3分、簡単に中央突破を許してトライを許す。0

7。敵はその後、好き勝手に得点を重ねていく。玉龍は、相手の早いつぶしにボールを思うように回せない。集合離散も心持ち遅い。それに、鋭くて早いパスについていけない。SOの巧みな動きにも幻惑されてしまう。「ないごてこげんなとや」歯がゆい。でも、フィフティーンの意気は軒昂だった。互角以上に渡り合うFW、スクラムを支配して再三、スクラムサイド突破を企てて活路を見い出そうとしたがうまくいかない。この果敢な攻めは、関ヶ原の戦いで郷土の先輩、島津軍の益荒男（ますらお）たちが「敵に背中を見すんな」と敵陣まっただ中を中央突破したシーン、心意気をほうふつとさせるものだった。

前半は0 33。後半も終始相手ペースで、玉龍は流れを変えることが出来ずじまい。終わってみれば終了間際の1トライだけで5 66。“敗戦”の2文字が残ってしまった。無念、残念。勝負に明暗はつきもの。時の運もある。仕方ない。

戦いすんで応援席に挨拶にきた戦士たち。流れ出る涙は「こんなはずじゃなかった」の悔し涙だただだろ。号泣とともに崩れ落ちるフィフティーンを抱

きかかえるチームメート。「ありがとうございました」の声がハッキリ聞こえた。応援席からは「ようきばった」「最後のトライは忘れんからな」「来年またきたらよか」と温かい言葉と拍手。3月で定年を迎える竹田節弥監督は、応援団を前に「必死の思いでここまでできましたが、これがやっとでした。残念です。これが22年ぶりという現実の厳しさでしょう。でも今後のチームにつながる敗戦だったことも事実です」と話され、いつまでも涙がとまらない選手達には「花園に来てよかったよな。この気持ちをこれからの人生につないでくれ。ありがとう」と涙ながらに労った。

試合は負けた。でも、後輩たちが残してくれたものは大きかった。代表に決まってから約1か月の緊張と興奮。久しく忘れていた感動という言葉を実感のものにしてくれた事実。そして、最後のトライは「人生、どれほど逆境におかれても諦めたらアカン」というお手本を目の当たりに見せてくれた後輩たちに『明日へのエネルギー』を注入してもらった思いがしている。

「こっちこそ、ありがとう」と声高に伝えたい。

南の空晴れわたり…。グラウンドに力強く流れた現役、OBが一体になっての玉龍校歌。それは、無念ではあったが新たな日々への応援歌でもあった。リリース・ザ・トラディション（伝統）が新たな合い言葉。さぁキック・オフ。



「What is the Dragon Boat」(下)

丸山宣武(34年卒)

日本ドラゴンボート協会とは

平成14年のアジア大会を無事終了し、日本協会も組織替えを行い、これまで中心的に組織を運営してきたということで、私が日本ドラゴンボート協会の第3代目の理事長を拝命いたしました。

会長は元衆院議長・外務大臣の桜内義雄氏でしたが昨年亡くなりました。ドラゴンボートが大変お好きで、いつも日本選手権大会は選手に親しく言葉をかけてくださいました。今、会長は欠員で後任を探しております。名もなく、金もなく、人もない協会ですが、若い熱心な選手登録している者が大会運営まで手伝っている珍しい競技団体です。こんな団体ながら、社会貢献にも気を遣っております。初期はユニセフへ予防接種拡大計画(EPI)へのささやかな寄付を、近年はカンボジアでの地雷による被害者義足支援など有森裕子(あのマラソン選手)さんが主宰のハートオブゴールドへの寄付、水を媒介とするためリパークリールキャンペーン、競技の特性から青少年教育などにも配慮いたしております。参加選手による会場清掃やゴミの自宅への持ち帰り、ジュニア大会の開催などです。

協会主催大会

協会主催の国内大会は、大阪での日本選手権(7月桜之宮公園)、東京お台場公園(5月)と相生(7月)での予選会、和歌山市マリーナシティ(10月)、吹田市神崎川でのジュニア選手権(7月)など多数にあがっております。今年は開空開港15周年記念大会を新港と旧港の間の水路で行いました。幅250m、深さ15m、長さは3km近くもあり、開港すると立ち入れない場所になります。あまりもの好場所だけに緑地帯とか、親水ゾーンとかに使えないかとお願いいたしましたら、開空の村山社長は考慮しましょうと言ってくださいました。ひょっとすると、この水路を中心に、ドラゴンボート、ヨット、カヌー、ボートなどのメッカになる夢を見ております。また、今年は淀川区商工会の夏行事にドラゴンボートを取り入れていただき、11校の中学生チームが集ってくれました。先生方も引率が大変だ

ろうと思いますが、熱心に指導してくださいました。来年以降も開催して下さるとのことです。ただ残念は日本各地でドラゴンボートとかドラゴンカヌーとかペロンとかの名で開催されておりますが、私らの協会とは関係のないことです。近畿地区で琵琶湖、高島町、芦屋、泉北大会や鹿児島でも大根占、菱刈、野間池などで開かれており、県民体育大会の種目になっておりますが、ローカルな大会としてのみ存在いたしております。私らとの相違は世界への展開・繋がりがありません。私たちが世界へ繋がる組織にしたことで、世界、アジアでの選手権大会への参加、欧州選手権をはじめ各地30カ所程のローカル大会への招待がまっております。他にはど素人向けの世界倶楽部カップ選手権という、チーム単位で自由に参加できる大会が毎年世界のどこかで開かれており、各国から80チームほどが参加しております。これは勝つより参加、人間交流が先で実に楽しいらしいです。

世界選手権へ出場チーム紹介

さて今年は世界選手権とアジア選手権が2週連続で開催されることです。世界選手権は昨年SARS騒ぎで上海市での開催が今年に延期され10月20日から24日まで開かれます。日本から3カテゴリーに3チームと40才以上のシニア選手権に、役員・選手合わせて140人が参加します。私は団長として19日の会議にも出なきやなりません。本来なら次のアジア選手権が杭州で28日から開かれるのでこれにも出なきやありませんが、勤め人なのでこれは別の役員に代わってもらいました。これらの大会に参加するチームは、オープンには横浜サーフベイザーズと言い、夏期の海水浴場の監視員の集まりで、いつでも裸でいたがるマッチョ集団、女子は相生の看護学校の生徒さんチームで将来の看護師の卵等です。混合チームは相生市陸地区の青少年補導員の集まりでペロンとドラゴンボートに励む若者たちです。指導者は園芸業の篤志家で家族をあげて青少年補導に励んでおられます。夏休みには毎年相生より10km程離れた家島群島の坊勢島までのツアーをされ、夜は浜でキャンプをし翌日帰るとのことです。このことが坊勢島の青少年へ

も大きな影響を与えました。はじめは夜の浜辺でのお決まりのけんか、次からは交流に変わり氏の考えが彼らにも波及し、坊勢でドラゴンボートを取り入れ、強いチームになりました。世界選手権、アジア選手権への参加が数回に及び、小さな島から世界へと、朝日新聞が大きく取り上げてくれました。この記事を書いた地方版記者はこのドラゴンボートにのめりこみ、記事の継続や成長の見届けのために、朝日をやめこの地区地方新聞社の神戸新聞の記者になったほどであります。また島の若者達は相生の文化ペーロンを、島の活性化に取り入れました。ペーロン船を購入し、島民対象のペーロン大会を開きました。この大会の噂はあっという間に広がり、翌年からは伝え聞いたドラゴンボート仲間が大学参加、渡船業者は船賃を半額にして島外者を受け入れております。立派にペーロンとドラゴンボートを文化として取り入れ、町は町をあげて（4島あって、相当にむつかーらしい）バックアップし、島内に艇庫まで建ててくれています。大会当日は島民総出、お年寄りが最前列を占めうれしそうに応援されております。8月下旬には、氏が手持ちのペーロン船に市所有船も加え、相生湾外の通称お椀島までのツアーを一般の方を対象に行い、近畿各地より3~400人程の方が集まります。お椀島では昼食の接待、終了後はこの方の家でチーム員の青少年が参加者のそーめんパーティの接待にがんばっております。

その他のチーム紹介

アジア大会参加の舞浜川探検隊チームは、東京ディズニーランドのボートツアーの漕ぎ手達の集団です。大半はアルバイトの学生で、客を乗せてツ

アーをするだけではおもしろくない、とドラゴンボートにはまった連中で、いずれの選手も金銭的には十分でない若者で、生活を切りつめての参加です。

その他、国内の大会参加チームには、初回からの参加で、当時は中年チームでしたがそのままのメンバーで17年、中年太り解消のジムメンバーの老齡チーム、飲み屋の親父とその常連客のチーム、消防手のトレーニング兼ねての火消しチーム、ランニングだけではと切り替えてきたランニング集団、会社の健康保険組合員、元カヌー選手集団、今カヌー選手集団、スキー好き集団、建築健保組合員、外人中心のランニングチーム、純粋にドラゴンボート好き集団、医科大学カヌー部OBと現役合同チーム、遊び好きグループ集団など構成・年齢は種々雑多です。とにかく遊び上手の集団が多いのが特徴であります。女子種目に唯一同窓会集団がありますが、会員諸氏いかがか！我々の組織で1チーム、シニアチームは40才以上が条件で、充分満たしておりますね。

追記 ドラゴンボートについて詳しく知りたい方は、ホームページ「JDBA (Japan Dragon Boat Association)」「日本ドラゴンボート協会」で検索してください。年間大会スケジュールや加入案内、Goods購入案内など、掲載されております。チーム編成が出来ない方は個人加入でその集団で大会出場できる道もあります。また、今後は普及、トレーニングを目指して10人艇の普及を図っております。艇作りは鹿児島のみじめな男に依頼いたしました。地元杜氏の里の方とも交流を図り、地元で作られる「いっどん」と言う焼酎の旨さにびっくりいたしました。発売数年でもうプレミアムがつき、なかなか購入が難しいとのことです。ご参考までに！



沖縄ドラゴンボートクラブホームページより

「歌の家」の三代 親・子・孫の歩み (1)

竹下 豊(41年卒)

まえおき

長い間、会費を払うだけの会員であった私が、関西玉龍同窓会にはじめて出席したのは、昨年7月の神戸ポートピアホテルで開かれた会であった。隣のクラスでよく知っていた村上芳樹君のギター演奏があるというので、それを聞きに出掛けたのである。軽妙なその語り口とともに、村上君のギター演奏会は期待に違わぬ素晴らしいものであった。後の懇親会も楽しい会であったが、その席で、なんだかよくわからないいううちに学年幹事ということになっていた。初めての見参者が幹事になるのだから、乱暴といえば乱暴な話、しかし、これも中堅・若手の参加者が少ない故か。その私が、今や2~3ヶ月ごとに大阪難波で開かれる幹事会に欠かさず出席するという優等生になっている。

このような次第で、3月の幹事会で「会報」の話が出た際に、何か書いてほしいという話にすぐに乗ってしまった。ところが、いざ書こうとするとなかなかネタがない。関西玉龍同窓会と頭に「関西」が付いているのだから、「関西」に因んだことを書けばいいのだろうと勝手に解釈し、京都の長い歴史を持つ家の事を書くことにしよう。同窓会の会報だから、あまり固い話もどうかという気がしないでもない。カルチャーなるものには縁遠い身で、多少、専門的な話になる部分もあるが、その点はお許しいただきたい。また、1回で終わらず、3回程度にはなりそうなので、紙面の余裕のある時に載せていただければとも思う。編集御担当の古里先輩方も、穴埋め原稿が少なくとも2回分はあるというのも心強いだろうと、これまた勝手な思い込みか。

1

京都の上京区、今出川通りを挟んで京都御所の北に、三方を同志社大学に囲まれた冷泉家(れいぜいけ)がある。現在の建物は寛政2年(1790)の再建であるが、現存する唯一の公家屋敷で重要文化財に指定されており、近年、総工費約7億円、足かけ7年の歳月をかけて大規模な解体修理が行われた。昭和天皇の侍従長であった入江相政氏は、冷泉家の分家入江家のお出で

あるが、四面楚歌ならぬ三面耶蘇ですなと仰ったという。また、大学紛争中は、冷泉家の上を火炎瓶が飛び、学生が屋根を走り回ったとも聞く。まことに物騒な話で、取り返しのつかない事態を招く恐れもあったのであり、学園紛争世代としては、忸怩たる思いもある。

この冷泉家に、大歌人藤原俊成・定家以来の貴重な古文書・典籍が襲蔵されていることは、和歌文学の専門研究者のみならず、日本文学・日本史研究者にも広く知られていた。そして、先代当主冷泉為任氏の英断によって、財団法人冷泉家時雨亭文庫が発足し、これまで非公開であった冷泉家の古文書・典籍の本格的調査・公開へと踏み出したのは、昭和56(1981)年4月である。「時雨亭」は、定家が『小倉百人一首』を編んだという山荘の名に因む。

その後、約10年間の基礎的調査を経て、朝日新聞社から冷泉家時雨亭叢書の第1回配本『古来風躰抄』が刊行されたのは、平成4年(1992)11月であった。この冷泉家時雨亭叢書は、財団としての資料の保存と公開という難しい問題をクリアすべく、精巧な写真による影印本を作り、それに解題を付して出版することによって、資料を公開するというものである。藤原俊成自筆の『古来風躰抄』は、現在は国宝に指定されているが、紙を材料とした著者直筆の書物が、800年の時間を超えて今日まで伝来しているのは、世界的に見ても極めて稀である。

私もこの叢書のシリーズに収められた数点の典籍の解題を担当して、それらを実際に調査する機会を与えられ、また、「冷泉家の至宝展」などの展観で、国宝・重文級の典籍を見る機会もあった(現在、国宝を除く歌書のほとんどは重文に指定されている)。個々の典籍の学術的な価値は勿論のこと、書としての美しさや豪華な装飾を施した料紙など、美術品としての価値の高い典籍もある。

それらの典籍を拝見しながら、私が思ったことのひとつは、俊成・定家・為家と続く「歌の家」のその3人の書風の違いである。この3人の書風はまったく似ておらず、三者三様の書風

“S”の話

観光鹿児島島のキャッチフレーズに「日本のS席」という表現がある。「S」はこれまで鹿児島島の象徴「桜島」や「西郷さん」、「焼酎」、「さつまいも」の頭文字からきていた。これに最近「SPA=温泉」、「SPACE CENTER=宇宙センター」、「さつま揚げ」、「薩摩焼」もとあらゆる“S資源”を動員、新しく「新幹線」も加わった。そういえば、日本の近代化の黎明となった「集成館事業」とこれを興した「島津斉彬」もまた共に「S」...。(鹿児島県観光連盟発行「鹿児島・旅百科」から)

事務局

【事務局の連絡先】

事務局

茶園征也(S35卒)

〒565-0821

大阪府吹田市山田東

3-18-1-1219

TEL&FAX: 06-6876-3674

会費振込先

郵便口座 00920-0-311726

関西玉龍同窓会

編集委員会

編集委員長

古里洋津(S33卒)

編集委員

上野絨一(S36卒)

印刷

中原政介(S34卒)

送付

茶園征也(S35卒)

原稿募集

会報編集委員会では皆さんが書きになった原稿を募集しています。高校時代の思い出、趣味や近況もの、詩や短歌に俳句、エッセー、現代社会に“もの申す”などなんでも結構です。

「息子のお嫁さん募集中」なんてものもあっていいと思っています。

編集後記

今年の梅雨は小雨傾向が続いていましたが、7月に入ってとたんに土砂降り。あちこちで被害が出ているようです。鹿児島でも被害が出なければ良いが、と思います。

鹿児島中央駅がともすてきに変身していました。新幹線も直通だと良いのにな。

低床市電も増えているようです。

鹿児島の市電

(6月30日撮影)



である。それは、それぞれの人を物語るようであり、その人の歩みを示すものようでもある。俊成は91歳の長寿を保った化け物のような人であり、後鳥羽院より九十の賀を賜るという栄に浴している。続く定家は80歳、為家は78歳(いずれも数え年)で没しているから、この三代は当時としては異例ともいえるべき長生きをしている点で共通している。

この三代を現代風にたとえれば、俊成は早くに父親を亡くした苦労人の創業者であり、定家は早くから父親に期待されてその英才教育を受け、父親の興した会社を順調に発展させた、自信過剰気味の二代目社長、為家はあまりにも偉大な祖父と父親を持った三代目故の葛藤を味わい、会社を守るのに腐心した人というこ

とになるうか。また、同時に子供のひとり偏愛し、子供の間で遺産相続の争いを招いて、三代続いた会社が分裂する因を作った人でもある。しかし、この偏愛がなければ、おそらく現代まで続く冷泉家は誕生しなかったであろうから、これも歴史の綾というものであろう。

志賀直哉の『和解』などに代表されるように、父と子の対立というのは、しばしば文学作品のモチーフになっている。この俊成・定家・為家の三代の間にも、父と子の相克、父親の思い通りにならない子など、家庭の抱える永遠の問題が横たわっており、それが「家」の継承の問題と関わっているから、事情は複雑といえないこともない。(以下、続く)

県人会報で関西玉龍同窓会を紹介

関西鹿児島県人会総連合会(会長・稲盛和夫)が年4回発行している会報「関西かごしま」の第10号(5月18日発行)の単位県人会のページに、関西玉龍同窓会が紹介されました。

内容は、発足10年目のサークルが、昨年未のラグビー部の全国大会出場

(東大阪・花園ラグビー場)を機に、その絆がより強固なものになったことなどが記されています。まだ読まれていない方は関西鹿児島県人会総連合会(075・213・2663)へお問い合わせください。無料です。

焼酎・知って得

【甲類と乙類】焼酎はその製法によって甲と乙に分かれる。甲類は連続式蒸留器を使い純粋なアルコールに近い、原料の香味の特徴を無くしたもの。乙類は昔ながらの製法、単式蒸留器を使用。原料の風味を大切にして醸造される。乙類は日本に伝来して500年に及ぶ歴史と伝統があることから一般的に「本格焼酎」と呼ばれる。昨今の

全国的な焼酎ブームの主役は「乙類」が握っている。

【原料】使用する原料によって味や香りが異なるのが焼酎。代表的な原料が芋、麦、米。他にとうもろこし、胡麻、そば。変わったところではニンジン、じゃがいも、きんかん、エノキダケ、紫蘇もある。いもを使うのは圧倒的に鹿児島だが、最近、八丈島のいもが希少価値を高めている。麦は大分県、長崎県の壱岐や四国で、米は熊本県、福岡県で主に醸造されている。

【麹菌】焼酎造りで使われる麹菌は主として白・黒・黄麹の3種類。これまでは白麹がほとんどだったが、最近は黒麹使用の焼酎が増えている。黒麹は甘味とコクがあり、黄麹はフルーティで香りがある焼酎に仕上がるのが特徴だ。

鹿児島島の地図が変わる

市町村合併で14市59町5村に

鹿児島島の地図が変わる。「平成の大合併」がスタートして6年。全国で3232あった市町村の数が、来年の春には少なくとも2231まで減ることになっている。故郷・鹿児島県でも合併調印、廃置分合が進み、これまでの14市73町9村が14市59町5村に塗り変わることになる。

市町村の合併は、地域の未来を切り開く地方分権の受け皿づくり、合併特例債に伴う財政基盤強化で『強い足腰で生き抜く自治体』の再編成が国が提起するキーワードだった。鹿児島県でも6年にわたり議論されてきた。その間、合併への道のりには再三の紆余曲折があった。

そうした中で、合併成立の第1号は平成16年10月12日にスタート（設置）した『薩摩川内市』で、合併により川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甑村、下甑村、鹿島村の名前が市町村名から消えた。

第2号は同年11月1日の鹿児島市の拡大で吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町が鹿児島市編

入された。これで鹿児島市の区域は拡大、人口は60万人を超える中核市が誕生した。

この3月にスタートしたのが『南大隅町』（廃された町は根占町と佐多町）、『錦江町』（同、大根占町と田代町）、『湧水町』（同、吉松町と栗野町）、『さつま町』（同、宮之城町と鶴田町、薩摩町）。

今年中に誕生するのが『南さつま市』、『いちき串木野市』、『霧島市』、『肝付町』、『曾於市』、『日置市』など。18年中に誕生するのは新『長島町』、『志布志市』などが予定されている。

合併は時の流れでもあり、財政困窮な自治体は行政が成り立たなくなるとか、福祉の地域間格差が広がる一方、という論議も大きなものがある。これからも合併は進んでいくのかもしれないが、鹿児島を離れて生活する者に“フルサトの発展”を願わない者はいない。一方、発展の裏側で、あの山、あの川、あの畑や田圃はそのままであって欲しいと願わない人もいない。イナカ…。この言葉の響きのなんと心地いいことか。

鹿児島県の市町村合併

- 【薩摩川内市】 川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甑村、下甑村、鹿島村（16年10月12日）
- 【鹿児島市】 吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町（16年11月1日）
- 【南大隅町】 根占町、佐多町（17年3月31日）
- 【錦江町】 大根占町、田代町（17年3月22日）
- 【湧水町】 吉松町、栗野町（17年3月22日）
- 【さつま町】 宮之城町、鶴田町、薩摩町（17年3月22日）
- 【南さつま市】 加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町（17年11月7日）
- 【いちき串木野市】 串木野市、市来町（17年10月11日）
- 【霧島市】 国分市、霧島町、牧園町、溝辺町、横川町、隼人町、福山町（17年11月7日）
- 【肝付町】 高山町、内之浦町（17年7月1日）
- 【曾於市】 大隅町、財部町、末吉町（17年7月1日）
- 【日置市】 東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町（17年5月1日）
- 【屋久島町】 屋久町、上屋久町（18年2月24日）
- 【奄美市】 名瀬市、笠利町、住用村（18年3月20日）
- 【長島町】 東町、長島町（18年3月20日）
- 【志布志市】 志布志町、有明町、松山町（18年1月1日）
- 【出水市】 出水市、高尾野町、野田町（18年3月13日）
- 【指宿市】 指宿市、山川町、開聞町（18年1月1日）
- 【鹿屋市】 鹿屋市、輝北町、串良町、吾平町（18年1月1日）